ミート・コンパニオン

阿部昌史代表

❶ 昨年においては、新型コロナウイルスの世界的な蔓延によって甚大な損失を受けた方たちに心を痛めるばかりです。幸い弊社においては感染対策の徹底を図り、現時点ではすべての事業所、全従業員において感染者は発生しておりません。新年を迎え、早期にワクチン接種が開始されることで、一刻も早い収束を切に願っています。営業面においては、弊社も相応の影響を受け売上減を避けられませんでした。国産食肉卸部門では量販、小売店のテーブルミート需要が活発だったため、売上減少の中でも前期並みの利益を確保することができました。しかし、加工部門においては外食に特化した営業展開をしていただけに、春先より受注量が極端に減少し、売上利益とも落ち込む結果となりました。これまでの販路の偏りを是正し、引き続き食肉に特化した食肉製品、肉総菜等、専門性を生かした商品構成を高めて事業展開を行います。また昨年は、弊社鶴ヶ島工場において大規模な設備増強工事を行いました。そのため、本年1月末をメドに新潟地区にある二つの工場を1カ所に統合することとし、前期より一工場減の体制となりますが、これにより生産効率が高まり、物流費の削減、固定費の削減につながることを期待をしています。

またことしは、対中国への日本産牛肉の解禁期待や、1年遅れでの東京オリンピック・パラリンピックの開催を迎える年になります。国際交流や観光客需要で大きな盛り上がりを期待する半面、非常に流動的で、先が見通しにくい新年となりそうです。変わりゆく消費形態と、商品トレンドをしっかりと見極めながら挽回をしていきたいと考えています。

❷【牛肉】 国産牛については、グループ会社の食肉センター「アグリス・ワン」ブランドの強化を図っていきます。群馬、埼玉、栃木、福島県産を中心に北関東、東北産の増頭を目ざします。また大分、熊本、佐賀県産を中心に九州産の増頭も図っていきます。資本業務提携会社「ニイチク」を加え、3社の協業により相乗効果を出していきます。3社では、すでにいくつかの産地ブランドの

取り組みを行っていますが、互いの顧客への販売実績につなげています。さらに、有名ブランドの指定食肉処理場の取得を可能にするための産地政策にも取り組んでいます。将来的には、九州に集中する近代的な食肉センターからの海外輸出の拠点を東日本でも可能にするため、近代的食肉センター拠点の開設を視野に入れ全面的に協力していく体制づくりを行っていきます。輸入ビーフについては関税の低減が決まっており、外食への戦略商品、量販店への肉惣菜の販売を強化し、多様化する生活トレンドにマッチした商品開発を行っていきます。差別化アイテムとしてアメリカ産F1極黒牛のステーキ商材を販売強化していきます。またアルゼンチン産牛肉のステーキおよびスライス向けの商材にも取り組んでいきます。

【豚肉】 弊社の主力ブランドである「TOKYO X」は、イベント参加やプロモーションを強化したこともあり、さまざまな媒体で取り上げられたことで知名度が上昇しました。数年前よりパーツ販売を始めたことにより、とくに都内の飲食店から食材としての引き合いが強く、多くの新規顧客の獲得につながりました。ことしは東京オリンピック・パラリンピックが開催されることを前提に、東京特産の商材として多くの引き合いが想定されるため、その準備に入っています。輸入豚肉においてはフランス産四元豚JPAブランドを継続して販売していきます。認知度がまだ低いので現地パッカー及び仕入先商社と連携してプロモーション活動をしていきます。

❸ HACCPの義務化を踏まえ、昨年までに全施設（8カ所）でHACCP外部認証を取得をしました。また、複数の業務提携先とは、おのおの得意分野での製造や販売協力を行いながら連携し、信頼関係を構築しながら全国的な供給力を高めていきます。また、将来に備え、今後も同業他社との資本業務提携も視野に入れながら多角的に展開し、製造および販売機能の強化を図っていきます。鶴ヶ島工場においては、工場単体での製造量アップと生産効率化を目的に、大型のトンネルフリーザーをはじめ大掛かりな設備増強工事を行いました。そのため、非加熱商材は鶴ヶ島工場へ集約し、新潟にある二つの工場は1カ所に統合し、これまで以上に加熱調理商材の製造拡充を図ります。

❹ グループ会社である株式会社アグリス・ワンを基幹として取り組んでいきます。アグリス・ワンに集荷する家畜は、顧客のニーズを第一に考え、取り扱いを進めています。生産現場の思いやこだわりが消費者に伝わるようなブランド化を推進していきます。

❺ 和牛については、海外輸出が回復傾向にあることや、中国への輸出解禁を念頭に置き、回復傾向が予測されます。東京オリンピック・パラリンピックが本格的に開催されればインバウンド需要が見込まれ、強い展開になるかもしれません。輸入牛については、豪州産は干ばつ等の影響により数量減、価格高となっていますが、中国への輸出が減少していることから価格軟化が予測できます。北米においても急激な価格上昇は見込まれないと思いますが、コロナの影響から細かな作業ができないことで手間のかかるアイテムは入荷が減少することが予測されます。いずれにせよ、コロナ収束後には国際的な需要が起きることから弱含むことは考えにくいですが、現時点では、その収束がどの時期にどの段階まで進むかまったく予測がつかないというのが本当のところです。

豚肉においては、巣ごもり生活が長く続き、需要は大きく膨らみました。今後も相場は堅調に推移すると思われます。輸入豚肉も伝染病の影響で世界的な供給力は伸びず、スソ物は数量減、価格高が予測され、国内への入荷は減少すると予測しています。